

今号は、地域福祉部と施設福祉部が一体となって取り組んだ施設、地域、社協の連携についてご報告します。

施設と地域の連携の広がり

4月1日現在、府内には29の地域貢献委員会が組織され、それぞれの地域課題に応じた活動が展開されています。

情報交換会では、「小・中学校の福祉教育に施設と地区福祉委員会が合同で実施した出前授業」の様子や「施設の交流スペースを活用した誰もが集えるカフェの開催」、「ふれあいサロンの昼食を施設で調理して届ける取り組み」、「地域の食事サービスに参加する高齢者を施設の車で送迎する事例」など、地域福祉活動での具体的な協働が生まれてきていることが報告されました。

こうした取り組みを、社協の広報誌や地域貢献委員会独自のニュース、ホームページ等で会員施設だけではなく、住民向け

施設連絡会

府全域で市町村社協地域貢献委員会情報交換会を初開催！

3月10日に開催した情報交換会へ、23市町村から社協職員と施設関係者が63人参加。種別・分野を越えた法人・施設間の連携方策や地域との協働のあり方について熱心な意見交換を行いました。

にもPRし、地域での理解を広げていく動きも出てきており、「地域貢献活動の見える化」をさらに進めていくことの重要性を全体で共有しました。

河内長野市 施設と地域団体との交流会



河浦 和哉氏

河内長野市社会福祉施設連絡

会は平成27年4月に設立され、初年度の取り組みとして「地域とつながる」ことを目的に、施設と地域団体との交流会を開催しました。

企画段階では、定例の幹事会に加えて、各施設の担当職員と社協職員で事務レベルの打合せを行い、福祉委員や民生委員・児童委員と施設関係者が顔の見える関係づくりができるよう、施設連絡会専用の「施設や職員の紹介ファイル」の作成や、交流会でのプレゼン運営の役割分担まで、ていねいに準備された様子が紹介されました。最後に、河内長野市社協の河浦さんが「施設、社協、地域団体が協力して地域課題に取り組んでいきたい」と抱負を語りました。

熊取町

福祉講座の開催と地域貢献の日

熊取町社会福祉施設等地域貢献委員会は、平成26年度にボラ



北村 友隆委員長



藤本 健氏

ンティア連絡会との共催で、住民向けの地域貢献福祉講座を開催。災害時の移動手段や緊急時の手話、知的障がいのある方の理解等、福祉の理解を広げる取り組みを展開しています。

また、平成27年度には行政と共催し、ボランティア連絡会の協力を得て、認知症徘徊模擬訓練等を実施しました。

さらに、毎月第3水曜日を「地域貢献の日」と定め、小学生の登下校の時間にあわせて、地域の方々と見守りやあいさつ運動を展開しています。

今後は、生活困窮者や生活支援を要する方への実践を考えていきたいと締めくくりました。

八尾市

災害協定の締結



荒井 恵一会長



吉原 武氏

八尾市社会福祉協議会社会福祉施設連絡会では、設立当初より災害時対応に関する研修会や協議を重ね、平成27年1月に八

尾市と連絡会とで「災害発生時における福祉避難所等の協力に関する協定」を締結しました。

現在、この協定に基づき、各法人・施設において、福祉施設が持つスペース(場)やスタッフ(専門性)、車両等の活用や、福祉避難所としての役割、地域の災害時避難所への支援など、具体的な地域貢献の方策を検討・準備しています。連絡会の荒井会長から「地域団体と福祉施設が連携して、小地域での避難訓練のシミュレーションを実施していきたい」と今後の予定が報告されました。

地域連携の充実・深化に向けて

生活困窮者支援や認知症ケア、虐待など、社会的孤立や複合多問題の地域課題の解決に向けて、予防から早期発見、総合相談、地域での見守りや社会参加、就労支援等の場面で、専門職と地域関係者の協働が必要不可欠となってきました。

府社協では、平成29年度末までに全市町村での地域貢献委員会の設置を目指しており、今年度は引き続き情報交換会の開催や、事例集の作成を進めていきます。

施設連絡会
(地域貢献委員会)

実践報告

地域ぐるみで子どもたちを育む！
母子生活支援施設における子ども
の学習支援と居場所づくり



(福)みおつくし福祉会
母子生活支援施設
東さくら園
施設長
廣瀬 みどり氏



(福)みおつくし福祉会
母子生活支援施設
東さくら園
少年指導員
吉村 敏幸氏

退所児だけでなく地域の子どもたちも対象とした「無料学習塾ひだまり」の実践を報告。
施設のスタッフだけでなく、民生委員、主任児童委員、ボランティアが協力し、学習支援だけでなく、家庭での食生活が十分でない子どもたちのために毎回手作りのおやつや月1回の昼食も提供しています。
吉村さんは、「子どもたちの見守りと、安心して勉強できる環境があれば、子どもたちが将来の希望を持てること、子ども

27年度マッセ・市民セミナー

地域に根ざした実践を発信！
社会福祉法人による地域貢献事業実践報告会

3月10日、大阪府社協は大阪府市町村振興協会と共催で標記セミナーを開催し、市町村社協、民生委員・児童委員、福祉施設、行政など173人が参加し、社会福祉法人が地域貢献実践を展開するヒント、それぞれの地域における連携のあり方を参加者が一緒に考える機会となりました。



たちへの支援を通じて地域とながれることを実感した」と語ります。

自立を目指して頑張る方々をサポート！救護施設における農業や様々な作業を通じた就労支援



(福)みなと寮
救護施設
千里寮
施設長
木島 初正氏

コミュニケーションが苦手な人も取り組みやすく、地域との



交流の場にもつながる施設近隣の遊休農地を活用した就労支援と、清掃業務など施設内業務を見直して就労訓練に活用できるメニューを生み出す2つの実践を報告。

長年ひきこもり状態にあった方を受け入れ、生活習慣やあいさつ、清掃業務などの訓練を経て、一般就労へチャレンジした事例では、残念ながら採用に至らなかったものの「次は頑張りたい」という本人の声を励みに、就労を目指して一緒にステップアップをしていきたいと木島さんは意気込みます。

悩んだ時は、保育園が力になります！保育園の保護者の心が届いた支援事例



(福)日本コイノリア
福祉会
旭丘まぶね保育園
園長
阿瀬 みな子氏



特別養護老人ホーム
大阪好意の庭
コミュニティ
ソーシャルワーカー
高倉 由実氏

「生活困窮者レスキュー事業」

で関わった、出産を間近に控えながらも出産準備が何もできていない未婚の女性への支援で、法人内の特養と保育園が連携した事例を報告。

保育園から、園児の保護者に協力を呼びかけ、哺乳瓶、粉ミルク、紙おむつなどたくさんのお品が集まりました。その後、無事出産した女性から、子育てを頑張りますと書かれたお手紙が保育園に届いたそうです。

阿瀬さんは、「お安いご用です、という言葉が自然に出てくる、助け合いや持ちつ持たれつ」の精神で実践している。こうした施設の風土が地域との連携にもつながっている」と語ります。

まとめ



大阪教育大学 准教授
新崎 国広氏

新崎氏は、セミナーのまとめとして、社会福祉法人には、地域とつながる(施設の地域化)ことは、利用者へのより良いサービスにつながる可能性がある。地域貢献の取り組みをさらに広げて欲しい。地域住民には、地域とつながりたいと考えている社会福祉法人があることを知り、何か手伝えることはないか、気軽に声を

かけて欲しい。行政には、地域に根ざして熱心に取り組んでいる社会福祉法人がますます増えるよう応援して欲しい、と参加者それぞれへのメッセージでセミナーを締めくくりました。

富田林市
福祉施設連絡会を
設立！

富田林市社協では、2月25日に「富田林市福祉施設連絡会」の設立総会が開催されました。

社協を含め38施設が会員となり、設立総会には会員施設の関係者だけではなく、市社協役員や市民児協幹事がオブザーバーとして多数参加しました。

この総会で連絡会会長に選任された(福)成和会の三木義弘理事長から、「安心・安全のまちづくりに向け、地域住民とともに、会員施設が種別を越えて一致協力し、新たな地域福祉の創造を進めていきたい」との力強い挨拶があり、オール富田林での地域ニーズに対応した地域貢献事業の推進が確認されました。